



第32号(2018年10月25日発行)
 “第8回ふるさと講座のお知らせ号”
 編集・発行
 ふるさとから学ぶ会
 代表・梅田 090-4922-5933

案外、知らない林業～森林づくり、木材活用

「私たちは、今も昔も森林に守られています」

第8回ふるさと講座のテーマは「木材(林業)」です

かつて、森林は町の財政を支え、山から切り出された「木材」は、煮炊きや暖房をはじめ、様々な場面で利用され、私たちの北国の暮らしを支えていました。

厳しい財政問題を解決し、上湧別村と下湧別村が組合立で高校(湧別高校)設立(昭和28年4月)を成し遂げることができたのは、「村有林」の存在でした。町には、いくつもの「木工所」があり、大工さんや建具屋さんが活躍し、魚やりんごを入れる箱は木製でした。

森林は、木材の生産のほかに、大切な働きをしています。森林は、水をたくわえ、空気を浄化し、豊かな海を育み、山を守り、私たちの国土と地球の環境を守っています。

町の面積の約55%は森林。町には山積みになっている木材があります。第8回ふるさと講座は、案外、知らない湧別町の「木材(林業)」のこと…町の林業の歩みと暮らし…街の山積み木材の行く先…森林づくりの必要な手間…実情をよく知る講師の方から学びます。貴重な機会です。ぜひ、ご参加ください。一緒に学びましょう。

第8回ふるさと講座「木材」

- <第1部>「資料からみる町の林業の歩み」(50分)
 - ・町史からみる町の林業の歩みと暮らし
 - ・資料「150丁の鋸(のこぎり)」から見えてくるもの
 - 講師 中島一之さん(町学芸員)
- <第2部>「この木材はどこへ」(35分)
 - ・木材はどこから運ばれ、どう活用されるのか
 - ・地域との関わり
 - 講師 脇坂敏夫さん(株湧別林産専務)
- <第3部>「町の山は今」(45分)
 - ・森林づくり～山の仕事
 - ・町有林の実態と課題・役割
 - 講師 田中千嘉伸さん(町水産林務課長補佐)

共催 湧別町教育委員会
 協力 (株)湧別林産
 湧別町水産林務課

- 実施日
平成30年10月20日(土)
 午後1時30分～午後4時
 ※(受付 午後1時～)
- 会場 ふるさと館JRY
 メディアシアター
- 参加費 無料
- 申し込み
 教育委員会社会教育課へ
 (TEL 5-3132)
 ☆締め切り
 10月16日(火) (諸準備のため)

<「北海道森林づくり条例(平成28年改正)」の前文(抜粋)>

我が国の森林面積のおよそ4分の1を占める北海道の森林は、えぞまつやみずならに代表される天然林やからまつなどの人工林が豊かに広がり、生命の源となる清らかな水をたくわえ、野生生物の生息の場となるとともに二酸化炭素を吸収し酸素を供給するなどの重要な役割を果たしており、私たちにとってかけがえのない貴重な財産となっている。

また、私たちは、森林から供給される木材を、工夫を凝らし愛着を持って、様々な形で暮らしに活かす木の文化に親しみ、そのぬくもりの中で潤いのある生活を営んできた。

しかしながら、・・・徐々に貴重な天然林資源が減少し、その豊かさが損なわれてきた・・・。

加えて、林産物の供給などを通じて森林を支えてきた林業及び木材産業等は、輸入木材の増加などの厳しい情勢から事業活動が停滞しており、このままでは、森林の整備や保全に支障を来して、森林の多面的機能の持続的な発揮が危ぶまれる状況となっている。

私たちは、改めて森林がもたらしてきた計り知れない恵みを思い起こし、その機能を持続的に発揮させるため、林業活動等の活発化や山村地域の活性化を図りながら、協働して、北海道にふさわしい豊かな生態系をはぐくむ森林を守り、育て、将来の世代に引き継がなければならない。

・・・百年先を見据えた森林づくりを進めていくため・・・この条例を制定する。